

後記

なぜ、この抄本を作ったのか。福島県の郡山市と川内村で、10月に公演をするためです。ここではほぼ1時間半で、癒しのリラ自然音楽（青木由有子の歌唱、月読かぐやの舞）1時間と、「アオミサスロキシン」朗読は30分で終えねばならない。とすると、20篇の詩すべての朗読はできない。詩はセレクトして朗読し、しかも詩集全体のもつ意味を伝えるにはどうしたらよいか。こうして、私は詩7編を選び、これに必要なナレーションをつけて朗読することにした。

7編で詩集の全貌を伝えることは至難だが、ある意味で直截にナレーションで語ることで、あるいは具体的に詩集の骨の部分を伝えることになったかもしれない。但し、詩集にはデリケートな陰微な部分が沢山あるので、できたら全詩の朗読書と、親子併せて使用して下さるなら、一層よくこの警告詩集のもつ意味が浮き上がってくるものと考えている。

それにしても、なぜ郡山市と川内村で公演を？ もちろん東日本大震災の被災者の人々への慰問、土地への癒し、それには私達のリラ自然音楽とリラヴォイス朗読が、現実に癒しの効果があるからお役に立ちたい、その気持ちからです。しかしもう一つ、詩集「アオミサスロキシン」を、ここで

朗読したい。なぜなら、福島県から、就中、川内村から日本再興のクサビが打ち込まれ、ひいては世界の新生、呱呱の声がここから発し始めるのではないか。日本を起点とした地球の新しい歴史の始まり、それをひそかに期待したのです。

たいそれた思いです。分かっております。ユメは不可能と人が言うことに挑戦すること、この他にユメはなく、ユメの実現もあり得ない。これは宮沢賢治に学んだことです。

川内村には草野心平があり、蛙の詩を書きつづけました。蛙は地球の物見役、先導役。この心平さんが宮沢賢治を世に出しました。賢治は「銀河鉄道の夜」を書きましたが、銀河列車は今現実に銀河の宇宙空間を走り始めています。このとき、「アオミサスロキシン」これが予言詩であるならば、真摯に朗読すれば、そこに書いてある通りのことが、即ち地球未来の夢のような平和な世界が、現実地球の物理的空間に目の目を見て、顔を出してくるかもしれません。何もせぬより、ユメにいのちをかけるのも一生です。それが世に役立つユメならば。一つの一生に、一つのユメ、いいではありませんか。

二〇一二年八月一八日

桑原啓善

(ペンネーム)

山波言太郎